

## 2. ダイバーシティの考え方

### (1) めざすダイバーシティ社会とは

性別や年齢がどうか、障がいがあるかどうか、国籍・文化的背景がどうか、性的指向・性自認がどうかということなどではなく、「一人ひとり違った個性や能力をもつ個人として尊重され、誰もが希望をもって日々自分らしく生きられる、誰もが自分の目標に向けて挑戦できる、誰もが社会の中で活躍できる社会」をダイバーシティ社会と考えます。言い換えれば、他者を尊重し、人の多様性が受容されることで、激しい環境変化にも適応でき、将来に向けて持続的な成長が可能となります。

このような社会においては、個人は一人ひとりが個性や能力を発揮し、活躍しています。

三重は、歴史的に、さまざまな人々をおもてなしの心で受け入れ、さまざまな交流を通じて、さまざまな人材、文化、技術などを生み出すなど、まさに多様性と共生してきた地であり、この三重の強みを生かし、実現に向けて挑戦していきます。

### (2) プラスであるという考え方

誰もがそれぞれの個性や能力をもち、性別や年齢、障がいの有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認をはじめ、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も変わっていきます。

一人ひとりが違った個性や能力をもつという人の多様性を知り、その価値に気づくことは重要であり、その多様性が認められる社会こそが健全であり、持続的に発展すると考えます。

例えば、スタッフとして障がい者を雇用しているカフェの現場では、一緒に働くうえで仕事に対する姿勢や能力、性格などの方がまず大事であり、障がい者であるかどうかということを意識しないようになるとのことでした。実際に一緒に触れ合うことで、障がいがあるかどうかということではなく、一人ひとりの個性や能力などに目が向きます

そして、一人ひとりの個人の目線でみれば、女性、障がい者、若者、高齢者、外国人の方など多様な人材がともに働くことで、働いている人の多様性や広がりが生まれるとともに、これまで働くことができなかった方の生きがいにつながります。企業にとっては人材確保ができるとともに、さまざまな人材がいることで急激な環境変化などのリスクへの対応力を高めることができ、また多角的な視点からの商品開発やプロセス改善などのイノベーション（変革）が起こり、生産性向上などにつながる可能性があります。社会にとっては、さまざまな商品・サービスの提供などにより、人々の暮らしが向上したり、経済の成長などにつながります。

ここで、ダイバーシティ（多様性）について、あらためて整理すれば、

- ①一人ひとりの違いを互いに受け入れることで、安心して能力が発揮できます。
- ②違うことに価値を見出すことで、価値観や世界観が広がります。
- ③違った能力が掛け合わされることで、イノベーション（変革）が起こります。

①～③のことから、一人ひとりの違い、多様性を尊重し、多様性に共感し、多様性（ダイバーシティ）をより取り入れる（インクルージョン）ことで、個人の学びや気づき、生きがい、組織・社会における新たな価値創出や成長などにつながり、個人、組織、社会にとってプラスとなります。これが、ダイバーシティ&インクルージョンの考え方です。